

# 宿縁

三月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗  
本願寺派

## 中原寺

TEL 〇四七―三七二一―〇二九二  
FAX 〇四七―三七二一―〇二六一

### 仏の救いの力は 引力に譬えられる



コペルニクスが地動説(太陽は宇宙の中心に静止し、地球は太陽の周りを回転するという説)を唱えて、むかしの人が、みんな、見たままに信じていた天動説(地球が宇宙の中心に静止し、そのほかの星はその周囲をめぐるとい説)が間違いだであると認められるまでには何百年という年月がかかりました。

これは人間というものが、いつでも、自分を中心として、ものを見たり考えたりするという性質をもっているからです。仏教ではこれを「自我(じが)」といいます。そしてそ

の根深さを「我執(がしゅう)」といって、我が力ではどうすることもできない迷い苦しみの根源だと教えます。

消臭剤のコマーシャルだったと思います。「臭いものは元から断たなきゃ駄目！」というのがありました。臭いものはどこまでいっても臭いので、臭い性質が無くなるわけではありません。良い香りが臭さを包みこんでその香りに同化してしまうというのが正解なのでしょう。

さて、仏事のときには「香」を炊きます。そもそも、香は古来、インドにおいては、臭気を防ぎ心身を清らかにして生活をする必需品でした。人はさまざまな悪臭を身から発して生きています。その悪臭を押えるために芳香を用いました。そして尊き仏の前では香を捧げる礼儀作法となって発展してきたのです。

親鸞聖人は浄土和讃の一首に、阿弥陀仏の芳香がそれを信ずる人に、染み移る功德を讃えられています。

**染香人(ぜんこうにん)のその身には**

**香氣(こうけ)あるがごとくなり**

**これをすなわちなづけてぞ**

**香光(こうこう) 莊嚴ともうすなり**

(念仏の教えというのは、阿弥陀如来があらゆる人を一人子のように憐みをかけてくださいます。その如来のお慈悲が私たちに受け取られ、子の母を思うように

まことの願いを信じ、お念仏申す人生を歩ませていただく時、念仏者の身にいただく徳を香の譬えによって示されています。)法衣をお香とともにタンスの中に入れておくと、衣を着たとき、好い香りに包まれます。その香りは、元もと法衣にあったものではなく、香の香りが染みついたものです。それと同じように、元もと私たちの心に、阿弥陀如来の本願を信ずる力も、口に称名念仏する力もなかったものです。その煩惱具足の凡夫といいつた私が、如来の香りによって、信を獲、称名念仏する身に仕上げられるのです。私たちが如来を憶い、南無阿弥陀仏と称えるのは、如来の香りが私たちに移った相(すがた)です。如来の香りが私たちの中にはたらいてくださる証拠です。

そこで、念仏者は、如来のお慈悲が私たちの心に届いて信心となり、念仏申すという姿となつて、私たちが莊嚴して下さっている」と味わわねばなりません。

「君たちはどう生きるか」の本には、ニュートンが木からリンゴの落ちるのを見て「万有引力の大発見」のことも載っています。現代の子どもたちの生活からは夕日を見たり、夜空の星たちを見上げることが少なくなつたといひます。人工の光やエネルギーの消費で大自然の不思議に接することがなく無くなつてきています。

ニュートンは単に木からリンゴが地上に落ちるのを見て何故なのかと考えただけでなく、もつともつと高くを考えて、それならなぜ月は落ちてこないのだろうから、重力と互いに引き合う引力によるものを考え付

きました。

こうした不思議発見は、いずれも天文学や物理学等による解明によるものですが、人間の苦悩から解き放つ仏法の不思議は人間の知能を超えた世界ですから、解明するものではありません。かえって人間の常識が邪魔をしてしまうのです。しかしヒントになることがあります。

五歳の園児の次の詩は、純真さと同時に本當の不思議さを語っています。

**ぼくの舌動けと**というときは、**もう動いた後や。ぼくより先にぼくの舌動かすのは何や？**

親鸞聖人が究極の発見をされた教えは、ただ阿弥陀如来の必ず救うと約束されてそれが成就された南無阿弥陀仏の法則によるとされたことです。

私の心はどだい散りぢりになるものからです。本當の宗教は、われわれの心の持ち方の問題ではなく、自分の心をどこに置くかというところが宗教の問題です。私の心の置き所は私の心ではなくて、仏さまの大きな願力のなかへ私の心を置くということが、信心ということなのです。私の心を自分で統制するのではなくて、その統制できない散りに乱れる心のままに如来さまにおまかせするのです。

重力と同じく浮力の関係を考えてみましょう。水泳には自分で何とか泳ごうと力を入れるとうまく泳げません。逆に浮力を利用すれば泳げるといふ理屈があります。

仏法の上でもつとも不思議なのは「阿弥陀如来の広き誓い」をいふと申しますが、どうぞお互い、み教えを聞く環境を大切に、弥陀の香りの身にお育ていただきましょう。

【寺灯雑記】

○仏婦の例会で「七高僧」を学ぶ

2/3

仏教婦人会の今年度の例会は前住さんによる「七高僧を学ぶ」ことになりました。二月の例会からの第1回目は龍樹菩薩で、大乘仏教の教えの基盤を確立し、浄土教の祖師と仰がれるインドの竜樹さまについてお話を聞きました。

正信偈の古文から「龍樹大士世に出でて、有無の邪見に陥る凡夫の身が、救われる道は阿弥陀仏の本願を信ずる易行道」であるところから学びを深めました。

次回から順次天親菩薩、中国の曇鸞大師、道綽禪師、善導大師、日本の源信僧都、法然聖人とお聞かせいただきます。

○「日本語になった仏教用語」を学ぶ

2/10

仏教壮年会の例会では今年、「日本語になった身近な仏教用語」を取り上げることにしました。その第1回は「縁起」について、ご住職よりその正しい意味をお話しいただきました。そしてそのあと参加者11名で世間で使われている縁起が良いとか悪いとかを問題にしながら、活発な話し合いを致しました。

○「塩浜ホーム」でボランティア活動

2/21

年間の事業として位置づけている対外ボランティア活動2カ所のうち、東京江東区にある社会福祉法人あそか会が運営する特別養護老人ホーム「塩浜ホーム」のボランティア

アに当寺仏婦会員4名が出向きました。

この日の仕事内容は、アイロンかけや繕いものでしたがご苦労さまでした。

【花まつりを祝いましょう】

☆日時：四月一日(日) 十時半

\*催し物

・仏さまのお話

・ゲーム

・はなまつりコンサート

・お餅つき

お釈迦さまのお誕生日に甘茶をかけてみんなどお祝いしましょう！

プレゼントにお花やお菓子のプレゼントを用意してお待ちしています。是非お子さんたちに声をかけて一緒にお出かけ下さい。

【越後七不思議とご旧跡参拝旅行】

☆日程：六月三日(日)～四日(月)

一泊二日(月岡温泉を予定)

参加費：三万二千元(概算)

行程：市川駅前～梅護寺(七不思議の八

房の梅と数珠懸け桜)～無為信寺

(二十四輩の十一番)～市川駅前

募集：三十名

全行程大型観光バス

越後七不思議とは新潟県内にある親鸞聖人の起こした奇瑞として伝承されている不思議。また、二十四輩とは親鸞聖人の有力な門弟二十四名が開基のお寺です。

【法要・法座・行事案内】

◇宿縁廟法要

\*三月二十一日(春分の日) 一時

(宿縁廟前にて)

・おつとめ：讚仏偈

今回宿縁廟に分骨して納める方、既に納骨されている方々には十二時半までに廟前にご参集下さい。

「前に浄土に生まれんものは後を導き、後に生まれんものは前を訪へ」の念仏相続の廟として建立されたのが「宿縁廟」です。

これまでに当寺に縁を結ばれた御同朋を導き手として、仏法の相続に励みましょう。

◇彼岸会法要

\*三月二十一日(春分の日) 一時半

(本堂にて)

・おつとめ：仏説阿弥陀經

讚仏歌(衆会)

・法話：高見沢孝之師

(鎌倉市西敬寺)

彼岸とは到彼岸の意で、迷いのこの岸を離れて、さどりの彼岸にいたるということです。春秋の二季、春分、秋分の日を中心に行われる日本独自の法要です。

今冬は厳しい寒さが長く続きましたが、ようやく暖かな春到来の兆しが見えてきました。年中でもっともよい季節に、自分の生活を省み、静かに仏のみ教えに耳を傾け、人間に生まれたよろこびと浄土への道を歩ませていただく我が身のたしかかな幸せを共にいたしましょう。ご参詣をお待ちしています。

○婦人会法座(天親菩薩)

・三月三日(土) 一時

講師：前住職

○子育てサロン

・三月十二日(月) 十一時～二時

子育て中のお母さん・乳幼児の交流の場を提供しています。参加自由

○和讃に学ぶ(正像末和讃)

・三月二十四日(土) 三時

講師：前住職

(如来の作願をたづぬればより六首)

○東京教区仏婦六十周年記念大会

・三月二十七日(火)

会場：パシフィコ横浜

テーマ「つなげよう豊かな心とみ法の輪」

○いのちの居場所を考える会

・三月二十九日(木) 十時半

「いのちの自己組織」―清水博著―の理論を通して参加者同士がいのちの居場所について語り合う。

○婦人会・壮年会合同法座

・四月一日(日) 一時半

朗読「葉っぱのフレディ」を通していのちについての座談会を予定。

○入門式

・四月二十二日(日) 十時

新たに当寺とご縁を結ばれた方々に受けていただく仏前での入門式です。

【三月の掲示板のことば】

人間みんな裁判官

他人は有罪 自分は無罪